

稲敷市学校及び幼稚園適正配置検討委員会委嘱状交付並びに第1回委員会

日時:令和6年7月30日(火)18時半～

場所:稲敷市役所3階331会議室

■検討委員会委員（順不同）

出席（25名）：根本光治委員／寺崎久美子委員／飯塚敏委員／亀山浩二委員／小松原剛委員／鴻巣伸二委員／田村慎太郎委員／篠崎和治委員／宇津木裕委員／黒田式子委員／栗山忠委員／根本照美委員／内藤信委員／宮本真由美委員／黒田真由実委員／高柳あゆみ委員／高野貴世志委員／篠田純一委員／高本昇委員／糸賀安志委員／佐久間信幸委員／磯山寿美委員／内藤のぞみ委員／糸賀妙子委員／尾崎利生委員

欠席（4名）：廣田磨美委員／坂本絵美委員／中山浩一委員／田所妙子委員

■委嘱式

1 開会（教育政策課長）

2 委嘱状（委任状）交付（教育長）

3 市長あいさつ

市長：皆さん改めましてこんばんは。本日は大変お忙しい中、「学校及び幼稚園適正配置検討委員会」にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。先ほど教育長から、委嘱状を交付させていただきました皆様におかれましては、委員をお引き受けいただきましたこと、重ねてお礼を申し上げます。本日皆様には、市内にございます小中学校の適正規模適正配置についてご審議をいただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、稲敷市が誕生してまもなく20年を迎えます。令和6年3月に第3次稲敷市総合計画を策定し、様々な施策に取り組んでいるところでございます。特に教育行政の分野におきましては、子育て支援教育プロジェクトを重点プロジェクトの一つとして考えて掲げており、子どもたちの社会性や協調性ととも、豊かな心を育むなど、今後ともさらなる教育環境の充実を図ってまいります。

現在本市では、合併当初の想定を上回るスピードで少子化が進んでおり、この少子化に伴う児童生徒数の減少や、学級数の減少により、子どもたちの教育環境に及ぼす影響が懸念されております。そのような状況を踏まえ、最善の教育環境を整えることを目的として、この度学校及び幼稚園適正配置検討委員会を設置した次第でございます。

皆様におかれましては、子どもたちにとってどのような環境づくりが良いのか、またどのような学校配置が良いのかという観点からご検討をお願いしたいと思います。市としても、引き続き、稲敷市の未来を担う子どもたちのことを第一に考え、地域社会で教育を担っていく体制づくりを進めてまいりたいと考えております。

この後、具体的に担当よりご説明をさせていただきますが、改めまして委員の皆様におかれましては、趣旨を何卒ご理解いただいて、慎重なるご審議をお願い申し上げまして、

私からのご挨拶をさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

4 会長・副会長の選任

会長：尾崎利生委員、副会長：寺崎久美子委員

全委員：事務局案を提示し全員承認

5 会長あいさつ

会長：ただいま会長に選任されました尾崎でございます。本日の会議は、皆様、勤務後の遅い時間の始まりとなりましたが、多くの委員の皆様に出席賜り、感謝申し上げます。

皆様の大半は、稲敷市に生まれ育ち、学校のPTA活動等にも積極的に活躍されてきた方々と存じます。さて、委員の皆様は、ここ20年の少子化の動向を教育現場で目の当たりにされてきていることと思います。皆様の思いや意見を賜りながら、幼児、児童、生徒たちの最善の利益「子どもの権利条約第3条」を目指し、本委員会への諮問に答えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

6 諮問

《教育長から会長に諮問》

1 諮問する事項

- (1) 稲敷市立小中学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方
- (2) 稲敷市立小中学校の適正配置の実施計画

■第1回の委員会

7 議事

《事務局の紹介》

《会議の運営方法（会議内容の公開・非公開）について》

- ・原則公開とする。
- ・主な発言内容について発言者名がわからないようにして記載する。
- ・読みやすいようにある程度語句を整理してまとめる。
- ・事務局がまとめた会議録案を会長と副会長に確認していただき、異議がなければ、市のホームページに掲載する。ホームページ掲載は、会議後およそ1か月（目安）とする。

《委員自己紹介》

《議事》

- (1) 稲敷市立小中学校適正規模・適正配置に関する基本方針について

《資料説明（事務局）》

会長：ただいまの説明に対し、ご意見、ご質問がありますでしょうか。

委員：本検討委員会名が「稲敷市学校及び幼稚園適正配置検討委員会」となっていますが、第1回の会議から第4回の会議までで幼稚園のことについては触れていません。委員会名と中身が違うのでしょうか。

事務局：この検討委員会の名前は「稲敷市学校及び幼稚園適正配置検討委員会」ですが、委員会の中で協議していただく内容は、小学校と中学校のみとさせていただきたいと思っております。幼児施設の検討委員会は、令和元年8月から検討を進め令和3年3月に答申が提出され「稲敷市公立幼児施設整備計画」が令和4年度から令和13年度までの計画がすでに策定されております。その中で、新利根幼稚園やゆたか幼稚園の閉園の流れも定めており、今回は組織の方があくまで例規上で決まっている名前になっており、その組織を利用して小中学校の内容を検討していくというような形になっておりますので、ご理解いただければと思います。

委員：何か腑に落ちませんが承知しました。

会長：もし気になることがあれば質問していただければと思います。

委員：私も最初にそれが気になっておりまして、幼稚園や認定こども園の基本方針は委員会の2回目、3回目に出てくるのかなって思いながら聞いていました。今の説明を聞き、この委嘱状・委任状の名称を変えた方がいいのではないかって思いました。ただ、明らかに小・中学校の方について手を付けて、認定こども園や幼稚園の方はすでに着手しているというのは、個人的にはどうなのかな、と思います。

事務局：幼児施設の整備計画は10年計画で現在計画が進行としているところです。その計画を改定、見直し、さらに新しいものを策定するということであれば、今後、方法を検討していくが必要になります。今回はあくまでこの組織を利用させていただいて、小中学校の今後のあり方を検討していくというような形で事務局としては、考えておりますのでご理解のほどよろしくお願いいたします。

会長：多分すぐに納得してくれてというのは難しいかもしれませんが、幼児施設については、現在検討して進めている途上であるという理解でよろしいでしょうか。

事務局：令和4年3月に策定した「稲敷市公立幼児施設整備計画」の期間内となっております。もし、整備計画をもう一度考えるということであれば、その計画を見直す方法などを検討させていただきたいと考えております。

会長：わかりました。幼児施設については、現在の在り様について疑問があれば出していただきたいと思います。それでよろしいでしょうか。

事務局：この会議の中でも議論をしていただければと考えております。もちろんその内容を加味した上で教育委員会としても検討していきたいと考えております。

会長：では、幼児教育の方はよろしくお願いいたします。

委員：アンケートの回答率はどのぐらいを想定しているのでしょうか。

事務局：できるだけアンケートの回収率は上げたいと思っております。目標は約8割回収したいと考えております。今はリアルタイムで情報を共有できるアプリのLEBER（リーバー）などがありますので、なるべく回答いただけるような体制をとりたいと思っておりますので、何かご意見ありましたらお願いいたします。

委員：8割の回収率を上げるっていうのはこれまでも経験から言っても難しいのではないかと考えております。やっぱり声なき声をどのように拾っていくかっていうのもやはり重要であります。私は基本的にアンケートに頼るっていうのはあまり好きではない手法であると考えております。しかし、進めていくのであれば、しっかりとしたその回収率を確保

していただいてから、先に進んでいかないと、切り口を間違えてしまうのではないかと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

委員：意向調査の対象者について、どうして3歳から5歳の就学前児童の保護者となっているのか、先々、適正配置を将来に向けて進めていく議論の場とされるのであれば、今既に生まれているお子さんの保護者が対象に入っても良いと思います。3歳と区切っているのは何か意味があるのか伺いたいです。

事務局：3歳からにした意味としましては、現在、保育所と幼稚園に入られている年齢っていうのを考えたところもあります。この委員会の中で0歳児から対象にするかどうかご協議いただきたいと思いますと思っております。

委員：お子さんがいらっしゃらなくても、既に結婚されて家族を築こうとしているこの稲敷市でどんな子育てができるのだろうという方も含めて、これからのここに定住していただくという意味合いからも、教育への関心度は高いのかなと思ったので質問したところです。あとは事務局にお任せします。

会長：すぐに結論を出すのは難しいと思いますので、一度対象年齢について、再検討していただくということでいかがでしょうか。

事務局：はい、検討させていただきます。

委員：自分の子どもの世代が中学校に上がるときにすごく子どもの数が減るので、統合すると思って本日出席しました。違うのでしょうか。

事務局：この後の議事で説明させていただこうと思っておりますが、統合するかしないというのは、そのアンケートの結果を踏まえてこの協議会で検討していただきたいと思いますと思っております。参考資料として、現在の子どもの数を示したものをお配りしていますが、その資料をご覧ください。令和6年度の小学校と中学校の児童生徒数と、今の0歳児が小学校に上がるとき（令和12年度末出生者数から推計）の児童生徒数を示しております。こういった資料を基にこの学校の規模をどのようにするか、学校の配置をどのようにするかというのを、この検討委員会で協議いただきたいと思いますと思っておりますので、よろしくお願いいたします。皆さまには1週間ほど前に郵送させていただいた人口が今後どのくらい減少していくのか資料4の「アンケート回答にあたっての参考資料」をつけさせていただいております。アンケート実施の際には、資料4の「ご協力のお願い」と「参考資料」を配付郵送させていただきますと思っております。

委員：参考資料にある人数はあまり変わらないですか。

事務局：出生者の数がそのまま入学するだろうという見込みで作成しておりますので、大きな変動はないと思います。

委員：それであればこの年に統合した方がいいっていうのがわかると思います。

事務局：それをこの検討委員会でご審議いただきたいと思いますと考えています。

委員：アンケートを答える側としては、「いつから」「どこに」統合されるっていうふうに書いてもらった方が、答えやすいと思いますが違いますか。

事務局：検討委員会の中で、例えば、統合した方がいいという意見が多くて、どこの場所とどこの場所っていうふうに決めていただければよいですが、事務局の方で決めた案を書くわけにもいきません。

委員：自分は江戸崎地区に住んでいて、中学校の統合に個人的に賛成なのですが、自分が統合するとなったら江戸崎中になるって思い込んでいるから賛成なのであって、これが、人数が少ない学校に統合されるとなると話は変わってくると思います。そういったアンケートにしないと意味がありません。

事務局：そういったことも含めてアンケートの内容についても協議いただければと思っています。

コンサルタント：アンケートにつきましては、やはり統合をする方針を決めた上で、アンケートをやる場合もございます。ただ、今回のアンケートにつきましては、統合するかどうかではなくて、学校の望ましい規模、通学距離といったものをお聞きしております。稲敷市の場合、難しいのは、国の基準に基づいた学校規模にしていこうとした結果、通学距離が長くなってしまった。そういった両方の課題がありますので、どちらの方を優先していくのか。小規模であっても、通学距離が短ければいいという答えもあるかと思しますので、まず方針を決める前に、保護者の方々のご意見を聞こうというのが今回のアンケートの趣旨でございます。

会長：事務局の方は今の回答でよろしいでしょうか。統合ありきではないということですね。その点を加味するとアンケート調査が成り立たなくなるので、ただいまの説明のように、様々な観点からご意見をいただければと思います。

教育部長：私の方から、補足で説明させていただきます。今、考え方について協議していただいております。アンケートについてはこの次、また事務局から説明をさせていただいて、ご協議いただきたいと思います。会長どうでしょうか。一つ目の協議内容で、これ以上ご質問がないようであればアンケート調査票の説明をさせていただきたいです。

会長：アンケート調査の説明をしていただくことでよろしいですか。

教育部長：1つ目の協議内容については、ご質問等ございませんでしょうか。

委員：今お話を伺っていることを考えると、まだ事務局の方としては、中期計画・長期計画な考え、合併とか統合とかいう青写真とかはないのでしょうか。

事務局：ありがとうございます。次の議事のアンケート調査の中で人数やそのあたりのお話もさせていただこうと思っています。やはり児童生徒数の人数もかなり減少しております。現在の小学校においても中学校においても、稲敷市内に2校あれば足りるぐらいの学校数になっております。広い稲敷市の地形を考えますと、西に1校、東に1校。数的に考えればそういう規模になるのかなと考えてはおりますが、検討委員会でご協議いただくことですので、事務局としてはこの程度の回答とさせていただきます。

委員：ということは、アンケート調査でもし合併は駄目だという意見が多かった場合には、どうされますか。やっぱり事務局として一つ方針を持っていて、計画を出して、それをベースにしたアンケート調査が結果としていい方に繋がるような気はします。その辺は皆さんどういうふうにお考えなのか。

事務局：ご意見ありがとうございます。おっしゃる通りでして、次のアンケート調査の議事の説明をさせていただいてからもう一度、お話をさせていただいてもよろしいでしょうか。

委員：どの資料を見ればいいのか整理してもらえますか。

事務局：今説明させていただいた内容は資料2になりますので、資料1と資料2は説明が終わ

っております。

会長：ただいまの基本的な方針については、議事の 1 つ目を保留した形で、資料 4 のアンケートの説明にいくという理解でよろしいですか。ここで一旦休憩をとっていただくのはいかがでしょうか。

事務局：それでは休憩というお言葉がありましたので、一旦休憩とさせていただきます。

（２）アンケート調査について

事務局：それでは会長、再開の方よろしく願いいたします。

会長：委員、お願いいたします。

委員：先ほど委員から質問が出ているのは全くその通りでありまして、今回皆さんが不安に思うところは、ゼロから統廃合に向けて進んでいく、これを決める会議であること。本質的には、現状を理解していただき、その後のアンケート調査を実施することが主旨だと思います。

そもそも論として、会議の進め方に異論があるわけではありませんが、会議の進め方として、例えば人口の変動があまりないときは、一般的にこのように検討委員会でやっていくというのは非常にわかります。しかし、急激に、想定以上に減っていく現状のときには、どちらかという市長の方針がもう少し具体的に、先ほど質問があったように、どのぐらいでどうなるというある程度のシミュレーションの中で、このような会議でお話をさせていただければ非常に意見は言いやすいと思います。結局一番重要なのは不安の中で話が今進んでいるということだと思います。ぜひ担当部局にはこれを市長に伝えていただいて、スムーズにできるためにはやっぱりそこら辺の意見、メッセージをもう少し強くいただきたい。諮問を投げかけるというより、先ほど委員のお話もありましたけど、アンケート調査をやって云々かんぬんではなく、いろいろ聞くことが重要です。その辺を整理していただいて、市長サイドからもう少し踏み込んだシミュレーションをベースに検討していくことが本来だと考えます。この会議がスタートしましたから、基本的にはこれに沿ってやりますが、もう少しスムーズにわかりやすくできるように、ぜひ進めていただければと思います。よろしく願いいたします。

会長：ありがとうございます。それではただいまのご意見を受けて、事務局の方からいかがでしょうか。

教育部長：ご意見ありがとうございます。先ほどからいただいております意見を市長の方にも伝えていきたいと思います。今後の会議の中で、そういった意見を反映させた形で進めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

事務局：教育委員会の説明の仕方が大変わかりづらい内容になっていたこと、大変申し訳ございませんでした。それで私の方から、そもそものこの会の目的を簡単に説明させていただきたいと思います。教育委員会といたしましては、人口減少、出生者の減少が、大変著しい状態になっていると認識しております。適正配置という言葉の通り、稲敷市は近い将来、学校の数で数だけでいうと 1 校で済んでしまう状態になることが想定されております。今現在、中学校 4 校、小学校 8 校ございますが、全ての学校規模が小さい状態です。その学校を今後 1 校にいつするのかという議論もあります。これは適正な数でいえば、稲敷市に

は1校で適正な数は良いので、中心に1校建ててしまえばいいのではないかという話も当然あります。

ただ、あえてそれを数だけではなく、適正配置・適正規模を皆さんに検討していただくというのは、今のままでもいいという意見や、少子化が進めば、稲敷市は東西に広い地形を持っておりますので、東西に2校残すのが通学時間等や地域性を考えたらいいのではないか。または4校、義務教育学校のように中学校と小学校の形を変える、または義務教育学校とせずとも小学校・中学校を1ヶ所の同じ敷地に置くなどの手法がたくさんございます。今回は、これから将来の人口を示させていただいて、出生者数から想定される数、そしていつぐらいにそういった時代が来るのか、そしてそのときに学校が何校あれば稲敷市は適切なのか、そういったことを検討委員会の中で一番妥当な点を考えていけたらというような目的でこの会議は開催されております。

学校数や統合時期で言えば、当然教育委員会は出生者などからそういったものが把握することができまして、いつ移行するのがいいのではないかというのはわかりますが、稲敷市の地域性や、稲敷市にとって、どういう段階で、小中学校を集約化していったり、最後にはどういう形で残すのが子育てやそういった環境も含めて一番良い形になるのかというのをこの会議で検討していただきたいというのが目的になっております。

以上がこの資料にはないのですが、そもそもの目的を伝えていないのに、細かな部分から説明が始まってしまったため、少し理解しづらい内容になっていたかと思いましたので、追加で説明をさせていただきました。

会長：ありがとうございます。資料3、4の読み方がよくわかりません。アンケート調査について説明をお願いします。

事務局：議事を2つに分けさせていただいておりますけれども、委員の方からご意見いただきましたので、併せてご説明させていただきたいと思います。

《資料説明（事務局）》

会長：ただいまの説明についてご質問、ご意見があれば、ご自由に発言してください。

委員：私は、小・中学校で教務、教頭、校長と務めていますので内情を申し上げますと、中学校で全教科の先生が集められないという学校が実際にあります。果たしてそれで子どもたちに質の高い教育を保障できるのかということがあります。それからもう一つ、教員には研修が求められていますが、果たして教科1人だけの学校に勤めていて、どれだけ自分の力を伸ばすことができるか。1つの教科に最低でも2人、本当は3人以上いた方がいいと思います。あとは、やはりクラス替えがないというのは、子どもの人間関係が硬直してしまいます。あつてはならないことですが、例えば、いじめの問題について、学級編成によりカバーすることも若い頃から現場でやってきました。どこまでアンケートの内容を入れるかっていうのは非常に難しいと思いますが、やはり学校を運営していく、より良い学校運営というようなことを、学校組織としての質の向上についても考えながらやっていく必要があると思います。あくまでも私の意見ですが、先ほど話を聞いていて、もう統合のための意見を言い合った方が早いと思います。事務局からあった通り、学校数を何校にするのか。

義務教育学校にするのか、しないのか。そういうことを我々が審議するのではないと思って私は今日来ています。だからアンケート調査を実施したら、統合は嫌だっていうのが出てくるのではないかなと思います。そっちの方が強いのではないかなと思います。

教育長：ご意見ありがとうございます。教育長という立場でお話をさせていただきますと、もうこの数字を委員の方も見ていただいて、現状のままの学校数では、近い将来学校教育が成り立たない規模になってしまうというのはもうおわかりかと思います。現状のままでは立ち行かない状況になってきつつあるので、早い段階で本当に稲敷市の教育環境として、数は減ることになるのは間違いないと思います。そういう中でどのぐらいの規模で、どこに配置をしていくのが一番いいのかというのをご検討いただきたいというふうに思っています。このアンケート調査の中身につきましては、委員からあったように、学校現場の教員としてわかっている部分で、例えば全教科の教員が配置できない規模になっているところがある。そういったことも、このアンケートの中に盛り込んだ方がいいのではないかなというようにご意見だったかと思いますが、その辺を全教科配置できる学級数は何学級以上だとかっていうふうに盛り込むと、そちらに誘導してしまうような形にもなるかと思うので、数的には何学級が、2学級、3学級あった方がいいとか、何学級の方がいいとか、そういうアンケートで、これについては私は致し方ないかなというふうには考えています。いずれにしても、先ほど事務局が話したように、アンケート調査の市民の声をもとに委員の皆さんで、市民の声を反映させながら、本当に良い数と場所と子どもたちの通学距離とかも含めながら考えて検討をしていきたい、より適切なものにしていきたいというふうに考えているところです。

会長：ありがとうございます。ご意見ございますか。

教育長：今回のアンケート調査についてですが、児童生徒の保護者の皆様へということで、アンケート調査の方を作成させていただいております。委員からご意見があったことも当然です。こちらの方は学校の方に対して、アンケートなりヒアリング調査等を実施して、保護者の皆さまのお声の方を聞いていければと考えております。

委員：桜川中学校は先ほどの参考資料の中にある通り生徒数 116 人ということで、中学校の中で生徒数が一番少ない学校です。先ほど委員がおっしゃったような学校としての課題を本当に痛感しているところです。アンケート項目を見ても、確かにもっと聞きたいよなと思いつつも、あまり聞いてしまうと、現状それでやっている学校も実際にあるので、変に首絞めないかなということを考えていたので、アンケート項目について難しいなという意見が一つと、先ほどの説明等を聞いていると、中学校の統合とかも話題になってきているようなので、策定方針の策定の目的の部分に「小学校の今後の児童数の推移を踏まえた学級数の動向」という形で書いてありますが、中学校のことを触れてなくていいのかなと思いました。

事務局：お答えさせていただきます。まず1つ目のアンケート項目について、先ほど教育政策課長からもありましたが、今回のアンケート調査につきましては、なるべく多くの皆さんに簡単に答えていただきたいというように思いもあり、結構簡略化しております。距離だけが問題ではありませんので、小規模校のメリットやデメリット、教育環境の問題からも、個々の学校の現在の状況等ではなく、教育環境の面もアンケート調査に入れるかどうかと

いうことを検討させていただきます。

事務局：2点目について回答させていただきます。「小学校の今後の児童数～」というふうに記載されておりますが、申し訳ありません。こちら誤りまして、「小中学校の今後の児童生徒数～」というふうに訂正させていただきたいと思います。

会長：ありがとうございました。その他、ご質問ありますでしょうか。

委員：何回も同じことと言って申し訳ないのですが、子どもが子ども園を卒園するので、小学校統合というのは近すぎてないなって勝手に思っていて。中学校を統合すると思って本日出席しているので、江戸崎中学校に入るのか、東中と江戸崎中学校の間に一校建てて、市全体で一校とするのか、そういう具体的なのはやっぱりアンケート調査項目に入れてもらってやった方がいいと思いますが、いかがでしょうか。

事務局：アンケート調査項目について、委員会の中で入れた方がいいのではないかという意見であれば当然入れさせていただきたいと思っております。

委員：同じ世代の保護者と話していると中学校はきっと統合だよねってもうみんな気づいています。統合すると市で決めてもらって、その統合して中学校がどこになるのかっていうのが、私達保護者が一番気になっているところなので、そこを、そちらで決めていただいて、それに賛成か反対かのアンケートを取った方が早いと思いますが、いかがでしょうか。

事務局：アンケート調査票の作り込みですが、先ほど人口減少の方のグラフでご説明したように、中学校は将来的には1校で足りますよというようなぐらいの人口規模になることを示しつつ、それでは本当に1校でいいのかということで、スクールバスに1時間以上バスに乗っても、子どもは大丈夫だよというのであれば、それは稲敷市内で一校という話にもなるでしょうし、それは中学生なら可能だろうけど、小学生1年生、2年生の低学年の子がスクールバスに1時間以上乗せておくのが正解なのか、というようなこともございます。ちょっとぼんやりした設問になってしまって、1校、2校とはっきりするような表示はしていませんが、通学時間や通学距離をお聞きして、その上で、東西に2校、稲敷市の真ん中に1校だというような考えができるのかなと考えておりますので、アンケート調査項目については、とりあえずこのような条件で入れさせてもらって、話を聞かせてもらった上で学校数の方向が見出せるのではないかなと考えております。そういう考えでアンケート調査項目を作成しておりますので、ご理解いただければと思います。

会長：今、事務局の方の考え方を説明していただきましたが、いかがでしょうか。

委員：非常に説明がわかりづらい、例題がまず悪い。1校で1校でって、1校だって現実的に皆さん1校ではないっていうのはわかっています。

例題として、おっしゃるようにもうちょっとわかりやすくしていただいて、理解をまず深めていただくということが一番重要です。現状を皆さんに理解をしていただく、ここに集まった方々がその次の話とその次の話をやっちゃうからよくわからないので、そこら辺をもう少し丁寧に皆わかりやすく、進め方を、アンケート調査のとり方の意味とか、例えば学校どこにしようかっていうだけだったら投票でやればいいやっていう乱暴な話ではないと思いますので、理解を深めながら、こういうこともある、こういうこともあると言っている示しをいただきながら、いろんな検討していただければと思います。

理解していく段取りだと思いますが、その辺をもう少し丁寧に説明できるように準備をし

ていただければ、今回多分慌ててバタバタやったと思いますので、そこは上手に、次回でも構いませんのでしっかりとやっていただくようお願いいたします。

教育長：アンケート調査項目について少し検討して、それからアンケート調査を実施するということではいかがでしょうか。事務局の方はどうでしょうか。

事務局：先ほど委員のご意見について、統合校案について賛成ですか反対ですかと。というようなアンケート調査をもし出せるのであれば、保護者は答えやすいかもしれませんが、そう簡単にどこの場所に学校を作るとかっていうのをこちらで簡単にお示しすることは、難しいです。そういった方針を作るための基礎資料のアンケート調査になります。よろしいでしょうか。

委員：わかりますが、なんかこの時間がすごくもったいないというか、なんでこんな大変な時間に子どもを預けてきたかっていうと自分の子どもが中学校に上がるときに統合する統合するときに、どこの学校になるのかっていうのが気になるから本日出席しています。

事務局：それをみんなで考えていただくための基礎資料のアンケート調査になります。

委員：でも、細かなアンケート調査を取ってもそれを全部反映できないと思っています。私達がこの場所に中学校を作りたいですってみんなが意見出して、それを参考に中学校で建てられないと思います。例えば、ハザードマップとかいろいろあります。この場所だったら中学校やっていけるっていう候補地を出していただいて、それに対して保護者がアンケートで答えるっていうふうにしないと、この何かアンケート調査は長くてだるいし、なかなか現実味がないアンケート調査だと思っています。どうでしょうかなんか時間ばかり過ぎちゃって言いたいことが言えなくて不完全燃焼です。

委員：私も同感です。

委員：本当に自分の子どもが中学校に上がるときに統合するから今日来ているので、その中身のある会議にしたいです。

委員：例えば、1校がいいのか2校がいいのか、現実には1校で十分間に合う児童生徒数になってしまうって、わかっているわけです。だったら1校にしますっていうことも一つあると思いますが、1校だとこういうデメリットもあるけどメリットもある。2校にすればこういうデメリットもあるけどこういうメリットがあるっていう案を、まず事務局から具体的に出していただくことが一つの方法だと思います。そういうある程度、案が形になって、それから先のアンケート調査ではないかと思っています。資料3の「平成22年に策定した稲敷市学校再編整備実施計画に沿って～」と書いてあるわけです。もうこれあるわけですよ。これに沿って、今度資料4の方には、「稲敷市市立小中学校適正規模適正配置計画」の作成を現在進めていますっていうことはもう案が、ある程度は形になっているわけです。案を示してアンケート調査をとったらどうかと思いました。このアンケート調査の案で無駄だとは思いません。この前段階があるのではないかっていうふうな感じです。

委員：みんな保護者の方も、結構忙しくしているので、設問数が17問だと多いと最初思っていますので、もうちょっと簡単というか、最初の段階でどういうことがしたいってことを簡単にわかるようにしてもらえた方がよいと思います。今のアンケート調査項目では答えてもらえないような気がします。

事務局：貴重なご意見ありがとうございます。率直にお父さんお母さん方の立場からのご意見っ

ていうのも頂戴したので、大変参考になりました。このアンケート調査項目についてですが、まっさらな状態にもう 1 回戻しまして、ご意見を踏まえて新たに簡単でもっとシンプルなものを検討したいと思います。そういったことで、会長いかがでしょうか。

会長：そうなりますとスケジュールの方はいかがでしょうか。

事務局：皆様、大変お忙しい中申し訳ないと思いますが、早急に新しいアンケート調査項目を含め、会議の進行の仕方もちょうと考え直しましてもう一度、会議を開催させていただけないかと考えております。

会長：皆様大変お忙しい時間を割いて会議参加してもらっているのです、その辺りちょっと慎重に考えていけないといけないと思いますが、内容的に早急に再検討すると、いうことがやっぱり必要だと思います。次回は、大体のいつ頃に開催できそうですか。具体的に定まってくれば、会議も長引かずに済むと思います。

事務局：会長のおっしゃる通りだと思いますので、できるだけ早くしたいと思っております。1 か月程度はお時間いただきたいなと今思っております。当初の予定では夏休み明けにアンケート調査を学校を通して配らせていただいて、学校に通っていない未就学児の保護者の方には郵送で送りたいと考えておりましたので、8 月中もしくは 9 月の頭ぐらいまでには、もう一度検討委員会を開催させていただいて、今、各委員からいただいた意見をまとめまして、きちんとした会議進行できるように、検討したいと思います。ご協力のほどよろしくお願いしたいと思います。

会長：事務局の方からはそういう意見が出ましたが、いかがでしょうか。

委員：ちょっと考え方も全て今の保護者の方々からのご意見を参考にするってことは、考え方そのものを変えられる予定だということによろしいですか。多分同じことをしても納得いかないと思います。

事務局：次回の会議の際には、具体的なパターンも事務局案として出させていただいて、協議をさせていただければなと思っておりますので、会長よろしいでしょうか。

会長：内容を少し変えていくということです。委員の皆さんいかがでしょうか。

事務局：それでは事務局といたしましては、今回のようなかなりわかりづらいワンクッションを踏まえる基礎資料集めるアンケート調査ではなく、今後に繋がるような明確な問ができなのかというアンケート調査項目を検討し、次の検討委員会で示させていただければと考えております。

会長：今結論出していくっていうのは難しいので、事務局がそういうふうにご考えてくだされば、本日はいいのかなと思います。いかがでしょうか。その他、よろしいですか。

委員：役所の人は遠回しだからダイレクトに入ってこない。

事務局：ありがとうございます。次回は明確にわかりやすいようにして、なるべくどうしたいのかっていうような資料にさせていただきます。

会長：では、もう今日のところは意見も出尽くしたと思っておりますので、1 ヶ月少しかかるかもしれませんが、検討委員会を開かせていただきたいと思います。皆さん、大変忙しいと思いますが、どうかよろしくお願いいたします。

8 その他

会長：本日は終了といたしますが、他に事務局から何かありますか。

事務局：本日は大変貴重なご意見ありがとうございました。先ほど会長からもありましたように
次回の委員会を1ヶ月ちょっと時間は見ていただきたいと思います。改めて作り直したもので、会議を開催させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。次回の開催も18時30分からということをお願いします。

9 閉会

会長：それでは以上で第1回の委員会を閉会といたします。本日はご協力ありがとうございました。

以上